

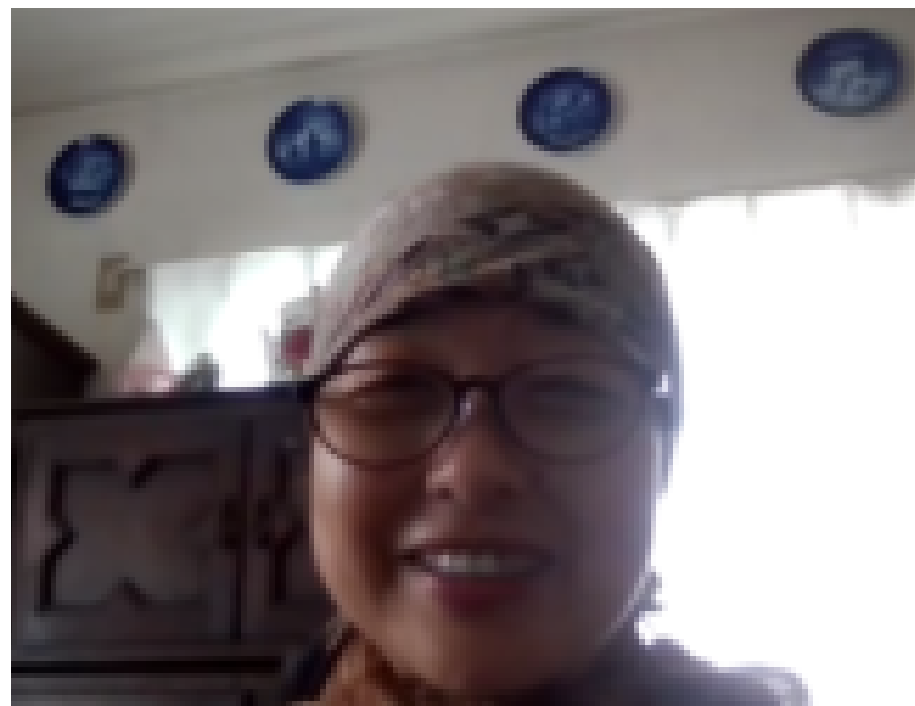


女性事前大会

「私たちは、女性が公共の場に出て行って、
そこで役割を果たせるよう、後押しするべきです」

エルガ・サラブン氏
新任議長 (APWoFN)

東京（日本）ーアジア太平洋女性信仰者ネットワーク（APWoFN）は、「女性のエンパワーメント：誰一人取り残さない、健やかで豊かなアジアの平和をめざして」をテーマに、2021年10月18日、第9回ACRP大会の女性事前大会をオンラインで開催した。



ビジネスミーティングで、エルガ・サラブン氏が2021年から2026年までのAPWoFNの新議長に選出された。エルガ・サラブン氏は、平和と社会正義の推進者として知られ、WCRP/RfP インドネシア委員会のメンバーで、INTERFIDEI（インドネシア諸宗教対話研究所）の所長を務めている。共同議長は、マヒドン大学教授でWCRP/RfPタイ委員会の事務総長、スファットメット・ユニヤシット博士である。事務総長は、WCRP/RfP日本委員会女性部会副会長の河田尚子氏が務める。

APWoFNは、第8回ACRP仁川大会の決議に基づき、アジアにおける人身取引の問題に精力的に取り組んできた。リリアン・J・シソン博士のリーダーシップのもと、APWoFNは、人身取引が多くの人々、特に女性や少女にさまざまなレベルで悪影響を及ぼしている世界的な問題であると認識し、人身取引あるいは現代の奴隷制をフラッグシップ・プロジェクトとして取り上げた。シソン博士は、「人身取引は凶悪な犯罪であり、女性の強制労働やジェンダーの不平等など多くの兆候を伴う複雑な人間の犯罪行為である」と述べている。2017年にマニラで開催された「現代の奴隷制に対抗する女性のエンパワーメント」に関するアジア会議や、2021年の「人身取引の実態と宗教指導者の役割」に関する2つのアジア・オンライン・サミットは、人身取引のひどい現実に対する一般の人々の意識啓発と、アジアにおける現代の奴隷制を緩和するためにACRPの女性指導者たちが実行している積極的な行動という、APWoFNの成果を明確に示すものとなっている。

ACRP事務総長の根本信博氏は、開会挨拶の中で、協働して行動することの必要性を強調し、「話して終わりではなく、具体的な行動を伴う話をする。時には話をする前から、あなたの情熱と思いやりが周りの人々を動かすこともあるのです。APWoFNのメンバーは、誰も取り残されることがないように、手を取り合って行動すべきです」と述べた。

根本氏の挨拶を受けて、基調講演を行った国連人口基金（UNFPA）駐日事務所所長の佐藤摩利子氏は、「今の世界では、孤立して活動できる人は誰もいません。協働が必要です」と強調した。



UNFPAは女性に関するさまざまな課題に取り組んでいるが、それは自分たちだけではできないことだと認めている。その中でも、女性の健康と福祉に関するものが最も多く、緊急性の高い課題となっている。「ジェンダー平等に取り組むことなしに、女性の健康に取り組むことはできません」と佐藤氏は語った。女性のエンパワメントの一環として、佐藤氏は女性の身体的自律性の必要性について言及した。世界中の多くの女性が自分の身体に対する自律性を有しておらず、このことが児童婚や妊産婦死亡、ジェンダーに基づく暴力など、他の多くの問題を引き起こす大きな理由となっていると述べた。



基調講演後、参加者は4つのワークショップに分かれ、次のサブテーマ「平和と人間の尊厳の尊重のための女性と少女の教育、人権と女性と少女の幸福、社会的結束と調和のための女性のエンパワメント、再生可能な開発のための女性のエンパワメント」について議論を行った。1時間のワークショップ・セッションでは、参加者は与えられたサブテーマについて、特に女性への影響を中心に、喫緊の課題を特定するよう求められた。さらに、それらの課題に取り組むための具体的な行動を起こすよう呼びかけられた。

すべてのワークショップの発表や議論の内容が報告された後、WCRP/RfPタイ委員会事務総長のスファットメット・ユニヤシット博士は、ACRPの目的や志を促進するためには、女性リーダー達のエネルギー、献身と団結、そして創造性が重要な要素であることを強調した。具体的には、ACRPの女性リーダー達に、娘達をどう教育したらよいかを親に伝え、そしてリーダーになれるよう若い女性たちを育成することを提唱し、いっそうの努力をしていくよう呼びかけた。

女性会議の最後には、エルガ・サラブン氏が次期APWoFN議長として就任挨拶を行った。エルガ・サラブン氏は、前任のリリアン・シソン博士の模範的なリーダーシップに感謝し、さまざまなACRP女性リーダー達の過去5年間の素晴らしい協力を称え、会議に参加したすべての人々に、これからの旅路を共にしてほしいと呼びかけた。「アジア太平洋諸女性信仰者ネットワークのメンバーが互いに助け合わなければ、当然、この新たなチームのリーダーシップは弱くなってしまうでしょう」と語った。最後に、APWoFNのメンバーに、「今後5年間、そしてその先も協力し、互いを褒め合い、修正し合い、ポジティブなエネルギーを与え合ってください」と呼びかけた。

APWoFN in 2021-2026		
	Position at affiliation	Religion
Japan	Vice-President of Women's Committee	Muslim
Religion and Peace	Member of CCRP	Christian
f Religion and Peace	Member of the Women's Committee	Christian
ustralia	Secretary	Christian
ndia	Executive Council Member	Hindu
epal	Secretary-General	Hindu
akistan	Secretary-General	Muslim
angladesh	Chair of Women's Network	Muslim
h Dialogue in Indonesia	Executive Director	Christian
yanmar	Secretary-General	Christian
hilippines	Deputy Secretary-General	Christian
nterreligious Council of Thailand	Secretary-General	Buddhism

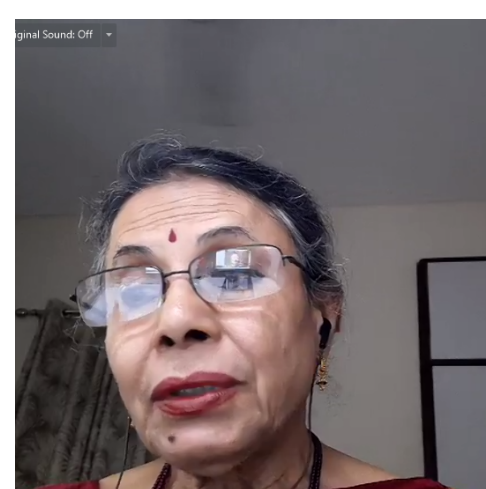
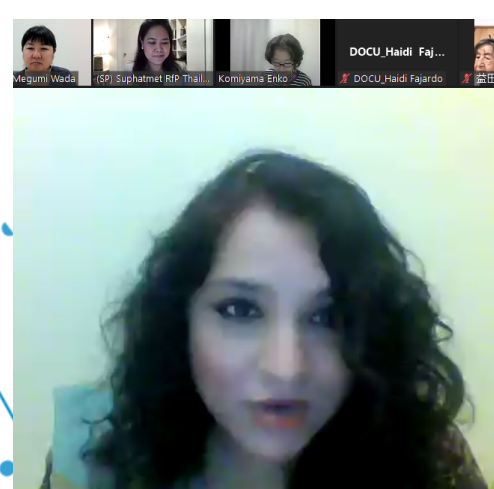
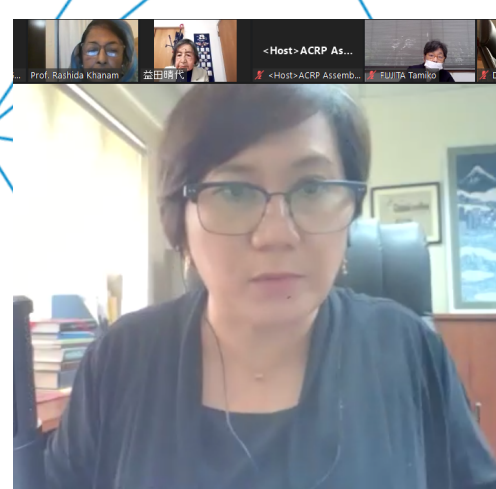


「女性が女性でいられるように。男性が男性でいられるように」

マンホン・リン氏
ACRPメンバー

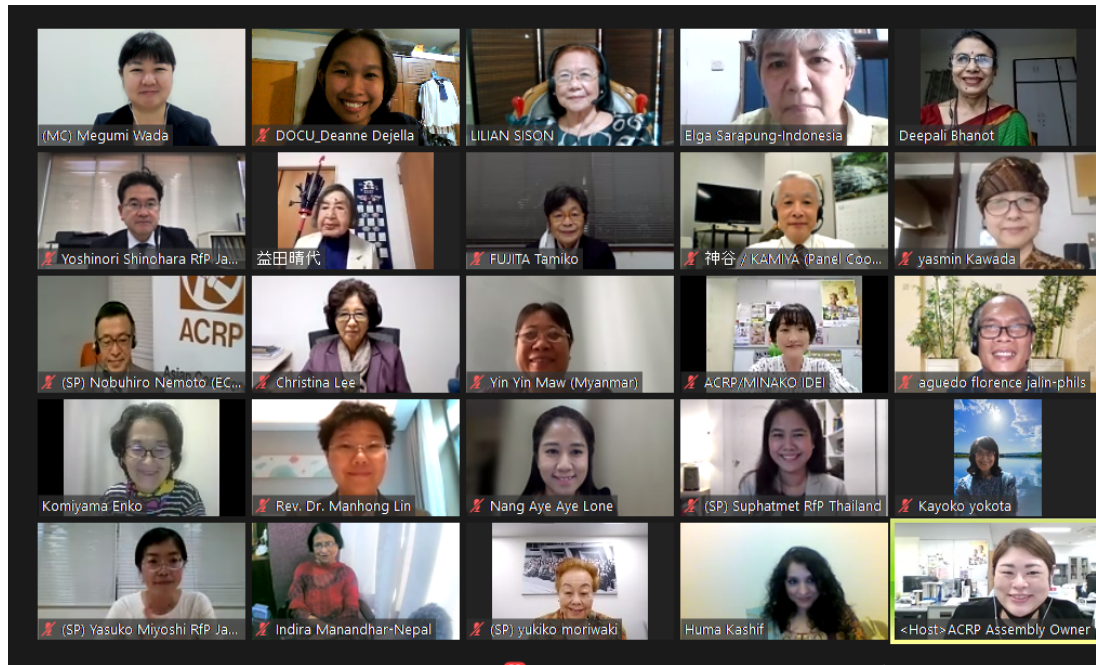
「女性の声を聞くことなく、最終意思決定がなされてはなりません」

小宮山延子氏
ACRPメンバー





平和で包括的なアジアに向けた女性のエンパワーメント： 今後5年間のAPWoFNの取り組み



T第9回ACRP大会の女性事前大会は、過去5年間を振り返り、現在の課題を見極め、未来を共同で思い描く場である。アジアの女性リーダー達はこの歴史的な会合に集い、今後5年間にに向けたAPWoFNの繋がりや役割について議論した。

女性事前大会の参加者は、協議や対話のプロセスを通じて「平和と人間の尊厳の尊重のための女性と少女の教育」、「人権と女性と少女の幸福」、「社会的結束と調和のための女性のエンパワーメント」、「再生可能な開発のための女性のエンパワーメント」というテーマについて考えた。

アジアの女性と少女の置かれた最も困難な状況として、以下の分野が挙げられた。

女性の不平等。教育、職場、信教の自由、家庭での役割や機能など、社会生活のあらゆる面で女性に平等な機会が与えられていないことが、アジアではいまだ広く習慣となっている。

文化的慣習。女性を家事労働に追いやる文化的な考え方や、支配的な家父長制の考え方は、女性の生活を困難にし、暴力や虐待の対象となることも数多くある。また、児童婚や、意思決定プロセスにおける女性への従属的な見方といった文化的慣習は、女性が自身の能力を十分に発揮できるようになることを妨げる。

社会的不公正。人身取引の問題、女性に対する不公平な扱いや暴力が、アジアの女性達の状況を支配し続けている。

女性とエコロジー。気候変動によって女性がより弱い立場に置かれ、生活がより困難になり、その影響で最も苦しんでいることも認められている。

APWoFNにとって、教育は、アジアの女性と少女の福祉を向上させ、保護を促進するための共通行動の最優先事項である。

女性の活動分野は、女性の平等と保護のためのキャンペーンにソーシャルメディアを活用する必要がある。

APWoFNは、政府や市民社会団体との連携を、女性の平等な権利のためのアドボカシー活動における重要な要素と考える。

APWoFNは、公正で調和の取れた社会を築くための平等なパートナーとして、女性をエンパワーするために能力開発トレーニングを提供することを約束する。

APWoFNは、本大会で女性の対話集会から挙げられた上記の主要目的をもって、ACRPをアジアの女性と少女のための行動する運動体へと変革していく。